



平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

【 北九州市 】

1 実践テーマ	【II, IV】
2 実施対象者	北九州市立菊陵中学校 全校生徒 219名 (1年生 78名、2年生 68名、3年生73名)
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (○ 音楽・保健体育) ② 行事名 (○ 文化発表会) ③ その他 (○ おもてなし講座)
4 目標 (ねらい)	○日本の伝統文化及び外国の文化、両者のかかわりについて学び、国際理解を深める。 ○国際社会の中で、相手を意識したおもてなしの心を実践していこうとする態度を養う。
5 取組内容	<p>【国際理解教室】(10月28日 文化発表会：全校生徒)</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>本校在籍の外国人生徒にゆかりのインドネシア出身の講師を迎え、インドネシアの人々やその生活・文化についての話を聞き、インドネシアについての理解を深めた。また、最後はインドネシアの伝統楽器のアンクルンを生徒と一緒に演奏した。</p> <p>左の写真はインドネシアの国について説明を受けている場面である。</p> </div> </div> <p>【京劇】(1月11日 音楽科：2年生)</p> <div style="display: flex; align-items: flex-start;">  <div style="margin-left: 20px;"> <p>2年生の音楽科授業の中で歌舞伎について取り扱う。その前段階として、中国の京劇と歌舞伎の関係について話を聞き、その比較をすることで日本の歌舞伎についての理解を深める。また、中国の人々の生活や言葉について、また少数民族についての理解も深めた。</p> <p>左の写真は京劇の登場人物を表す特徴(化粧や動き)について説明を受けている場面である。</p> </div> </div>

【琴・尺八】（1月30日 音楽科：2年生）

音楽科では毎年1年生には琴、3年生には三味線の授業を行っている。2年生では1年生で学習したことを発展させて17弦の琴と尺八について理解を深め、13弦の琴との合奏を行った。また、正座をして、手を付き挨拶をする日本の礼儀作法なども習った。



【剣道】（1月 保健体育科：1年生）



本校では毎年、1学期にJICA研修員に日本伝統文化を体験してもらう交流会を開催している。研修員が話す言語を調べ、生徒が自ら説明を行ったり、実演したりして日本文化を体験してもらっている。体験プログラムの一つが剣道で、保健体育科の授業で、武道を学習することで、交流活動をより充実したものにする意欲につないで

いる。

上の写真は剣道の型の一連の流れを練習している場面である。

【おもてなし講座】（1月15日：総合的な学習の時間1年生・2年生）



筑波大学客員教授の江上いずみ教授を招いて、相手に喜んでもらうために心を尽くす「おもてなしの心」について講演いただいた。CAとして海外の方との経験などを通して相手を大切にするということについて演習を交えて学習した。

6 主な成果

- 外国の人々の生活や文化について、また、日本の伝統文化について、体験を通して理解を深めることができた。
- 他の国の人々と交流する体験ができた。「自分にとって大切なことが他の人にとって必ずしも大切とは限らないこと」（多様性を認め合うこと）を理解し、積極的に相手理解に努め、思いやることの意義を理解した。
- 自分たちの文化を理解することにとどまらず、発信する体験ができた。
- 各教科との関連付けることにより、一層効果を高めることができた。今後の学校行事や教科指導における生徒の意欲向上が期待できる。
- 「おもてなし講座」が1年生の職場体験の直前だったので、教えてもらっ

	<p>たことを実践することができた。また、逆に2年生が高校訪問を終わった後だったため、自分たちの言葉遣いやマナーを振り返ることができた。</p>
7実践において工夫した点 (事業の特色)	<ul style="list-style-type: none"> • 本校は北九州市内2校ある「帰国外国人児童生徒教育センター校」の一つであり、ESD 教育を実践するユネスコスクールでもある。「国際理解教育」を学校のテーマとしていることから、今回のテーマも自国・外国の文化理解や共生をテーマにしたものとした。 • 今回の国際理解交流活動がただのイベントに終わることがないように、各教科のカリキュラムと関連づけたカリキュラムマネジメントを図るとともに、今後の活動に発展できるようなプログラムとした。 <ul style="list-style-type: none"> 例①；京劇→授業「歌舞伎」→修学旅行「能体験」 例②；おもてなし講座→道徳「人権」「思いやり」→次の交流活動 例③；JICA 交流→保健体育授業「剣道」→次年度の JICA 交流 • 各実践の後に、生徒は振り返りを行い、これからの生活の中で学んだことをどう生かすか考えさせ、学校通信や学年・学級通信で生徒や保護者にその成果を周知した。 • 今回4中学校でグループを組み、講師を招聘したため、少ない予算で招くことができた。
8主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 今回実施期間が限られていたため、限られた範囲の取組となってしまった。体験を伴ってはいたものの、受動的な活動が多かったため、次は生徒会にも投げかけ、生徒が中心となって保護者や地域を巻き込んだ生徒会活動に発展させたい。 • この取組を単発で終わらせず、継続することで生徒への定着が図られるものである。現在行っている特色ある学校教育活動に5つのテーマの要素を加味することで、職員の負担が過度に増加することなく取組ができると考えられる。
9来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none"> • 「国際理解教育」をテーマにした取組（JICA 交流・文化発表会での国際教室等）は今後も継続する。さらに、自主性を育成するために生徒会活動を充実させ、生徒の思考力・判断力・表現力を身に付けさせていきたいと考えている。その際、外国人が多く居住する本校校区を学びの場ととらえ活用し、地域の力を得ることも考えたい。 • 特別なイベントもさることながら、今回のテーマとしている5つの視点を年度当初にたてる各教科等の指導計画に取り込み、年間を通じて教育課程の中で指導できるように計画したい。